

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100446		
法人名	株式会社 やさしい手甲府		
事業所名	やさしい手 グループホームこうふ西		
所在地	山梨県甲府市上石田1-8-23		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して2年9カ月が経ちました。当事業所の理念でもある『心をつむぐ絆』の言葉を大切にしてご利用者様、ご家族、地域の方々との交流が密に出来るよう努力しております。今年度は文化祭への参加、高校生や保育園児との交流、傾聴ボランティアの受け入れなど地域との交流に力を入れてきました。また昨年と同様一カ月に一回は花見やぶどう狩りなどの外出、夏祭りや敬老会など大きな行事をご家族も巻き込みながら楽しんで頂けるよう企画しました。3年目ようやくスタッフが定着し、利用者主体であることを意識して質の高い介護が出来るよう努力しております。今年度はグループホームで看取った方も3名いて、ご家族から最後はここで選んでもらえた事、ご利用者様の最後を看取っていったことがグループホーム、スタッフにとって大きな経験となりました。運営推進会議を通して他のグループホームとの交流もあるので情報を共有しながらより良いグループホームになるよう努力していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府の市街地にあり、敷地内には同一法人のデイサービス、訪問介護、小規模多機能型居宅介護の事業所がある。グループホームは三階建ての一階と二階に各ユニットがあり、三階は多目的ホールや会議室になっている。事業所は、地域とのつながりを大切に積極的に交流を図っている。利用者、家族との信頼関係づくり配慮し、年1回家族の満足度調査を実施して意見や要望を聞き、支援に活かしている。また利用者一人ひとりの思いを大切に、より良いサービスが提供出来るよう、常に職員の意識向上に務めている。利用者は明るく清潔な環境の中で、職員の支援のもとゆったりとした時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		



[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーに御利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせ共に創るその人らしい生活を支援できるよう社員の入社時やミーティング等で理念を共有して実践できるように伝えている。	事業所の理念「心をつむぐ絆」をモットーに御利用者、ご家族、地域の方々と心を通わせ共に創るその人らしい生活を支援できるよう社員の入社時やミーティング等で理念を共有して実践できるように伝えている。	開所時に全職員で考えた理念を基に、利用者、家族、地域をつなぐ支援を進めている。理念はリビングに貼り、朝礼などで確認し職員間で共有している。職員は常に初心に戻ると共に、社内研修会の倫理、マナー研修でも学ぶ機会を持ち、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推移会議時に地域の方々にはグループホームの内容や課題などを一緒に考えて頂く機会を設け、お便りなどの毎月の活動に関心を持ってもらう様にしている。	運営推移会議時に地域の方々にはグループホームの内容や課題などを一緒に考えて頂く機会を設け、お便りなどの毎月の活動に関心を持ってもらう様にしている。	自治会長を通して事業所に回覧板を回してもらい、地域の行事を知った。地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、秋祭りにも参加した。子供神輿が事業所を訪れ、利用者も大変喜んだ。また、近くの高校生や幼稚園児との交流も予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者やボランティアの方またはご家族からの抱えている不安などを解消すべく助言などを行っている。	運営推進会議の参加者やボランティアの方またはご家族からの抱えている不安などを解消すべく助言などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では熱心な意見が毎回出ており、厳しいお言葉も頂くが、出来る限り意見や要望についてはすぐに実践をしてサービス向上に活かしている。	運営推進会議では熱心な意見が毎回出ており、厳しいお言葉も頂くが、出来る限り意見や要望についてはすぐに実践をしてサービス向上に活かしている。	偶数月の第3水曜日に定期的に開催している。雨の日の受診時に濡れないよう、玄関の工夫をしてほしい等の意見が出ている。また、会議参加者の勉強の場とも考え、その時々合った情報提供をしている。最近では職員が「スキンケア」や、「感染症」などの話をした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議の議事録の提出や各種報告書の提出時に取り組み状況などを伝えており、定期的に足を運ぶ事で関係強化に向けて取り組んでいる。	運営会議の議事録の提出や各種報告書の提出時に取り組み状況などを伝えており、定期的に足を運ぶ事で関係強化に向けて取り組んでいる。	市から傾聴ボランティアや介護相談員を受け入れている。利用者は話相手が出来て、外からの情報が入ることで気分がリフレッシュ出来る。運営推進会議の議事録の提出や、介護認定の更新時等には担当職員に事業所の状況を伝えて、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃の朝礼やミーティング時に職員に対して身体拘束に対しての内容などを話している。年に二回は身体拘束をテーマに勉強会を計画している。身体拘束をしないケアが何であるか、どうすればいいか職員も前向きである。	日頃の朝礼やミーティング時に職員に対して身体拘束に対しての内容などを話している。年に二回は身体拘束をテーマに勉強会を計画している。身体拘束をしないケアが何であるか、どうすればいいか職員も前向きである。	身体拘束の勉強会では、「ゆとりのある介護が出来る様な対応の仕方」を職員で模索している。利用者の行動に目配り、気配りして、「どうしましたか」と声掛けを行ない、利用者の気持ちを汲み取るケアをめざしている。スピーチロックは職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待についてはニュースでも多く取り扱われている。自分自身がどうなのかを常に問いかける様に職員には伝えている。高齢者の尊厳の保持を常に心にとめ、対応出来るよう注意している。	高齢者の虐待についてはニュースでも多く取り扱われている。自分自身がどうなのかを常に問いかける様に職員には伝えている。高齢者の尊厳の保持を常に心にとめ、対応出来るよう注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度や成年後見制度の必要性のある方が今現在いないが、今後に関しては権利擁護に関する勉強会も検討する。	日常生活自立支援制度や成年後見制度の必要性のある方が今現在いないが、今後に関しては権利擁護に関する勉強会も検討する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はは改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等に関しては最初の契約時に不安の無い様に説明を行なっている。改定時にも素早い対応を心掛け十分に理解して頂ける様に説明している。	契約の締結、解約等に関しては最初の契約時に不安の無い様に説明を行なっている。改定時にも素早い対応を心掛け十分に理解して頂ける様に説明している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対し、満足度調査を年に一回実施しており、意見や要望を受け、運営に反映させている。	ご家族に対し、満足度調査を年に一回実施しており、意見や要望を受け、運営に反映させている。	毎年家族に7項目の満足度調査を行っている。「毎日入浴したい」「散歩や外気浴を多くしてほしい」などの意見があり、家族の協力を得ながら入浴回数を増やせた。また、面会時に気軽に意見や要望を言ってもらえるよう、日頃から家族との関係づくりに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎回2回のスタッフミーティングを開催し、職員から出る意見を吸い上げたり、個人面談でスタッフの思いをくみ取る機会を設けている。課題を明確に出来る機会の確保が出来ている。	毎回2回のスタッフミーティングを開催し、職員から出る意見を吸い上げたり、個人面談でスタッフの思いをくみ取る機会を設けている。課題を明確に出来る機会の確保が出来ている。	管理者と職員の個人面談を、定期的に行っている。管理者は、日常的に職員とコミュニケーションをとる様になっている。職員はそれぞれ地域密着担当、行事・レク担当、物品担当などの役割がある。物品担当がいる事で、物品の調達はスムーズに行われるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の面談を行なう事で、今問題になっている課題が抽出でき、それを吸い上げ、代表者に伝える事で環境の整備を図れるような仕組みがある。	個々の面談を行なう事で、今問題になっている課題が抽出でき、それを吸い上げ、代表者に伝える事で環境の整備を図れるような仕組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初心者研修、現任者研修、中途者採用研修等の社内の研修、認知症実践者研修等の社外への参加、また毎月テーマを決め勉強会を行なっている。	初心者研修、現任者研修、中途者採用研修等の社内の研修、認知症実践者研修等の社外への参加、また毎月テーマを決め勉強会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内にて別サービス事業所との交流、研修を行なっている。またグループホーム協会主催で他グループホームの見学も行った。	社内にて別サービス事業所との交流、研修を行なっている。またグループホーム協会主催で他グループホームの見学も行った。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係作りに努めている。	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係作りに努めている。	ご本人、ご家族、関係者からの情報の聞き取りを行い、安心できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要としているサービスが何であるかをご本人、ご家族と検討しデイサービス、小規模多機能も紹介しながら他サービスを含めた対応を行なっている。	今必要としているサービスが何であるかをご本人、ご家族と検討しデイサービス、小規模多機能も紹介しながら他サービスを含めた対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者からも職員が馴染みの顔として、信頼関係も出来ており、こだわり等も表に出してその人らしい生活が出来ている。	ご利用者からも職員が馴染みの顔として、信頼関係も出来ており、こだわり等も表に出してその人らしい生活が出来ている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者のご家族との概念ではなく、一緒にご利用者を支えていくという意味では、行事でも職員と一緒に手伝って頂く事もあり、されるだけでなく、して頂く事でご家族も楽しみを抱えている。	ご利用者のご家族との概念ではなく、一緒にご利用者を支えていくという意味では、行事でも職員と一緒に手伝って頂く事もあり、されるだけでなく、して頂く事でご家族も楽しみを抱えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全てではないがご家族以外にもご本人の近所の方が何人も面会に来られたりと門戸を広くする事で訪問しやすい環境が作られている。	全てではないがご家族以外にもご本人の近所の方が何人も面会に来られたりと門戸を広くする事で訪問しやすい環境が作られている。	家族、友人、知人の面会が多く、中には毎日訪れる家族もいる。家族との関係継続の支援のためにも、家族との行事を企画している。この秋には、ぶどう作りをしていた利用者の畑に、ぶどう狩りに出かけた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係把握はできており、職員が橋渡しをする事で、孤立したりストレスを抱えない様に支援している。	ご利用者同士の関係把握はできており、職員が橋渡しをする事で、孤立したりストレスを抱えない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係に関しては関係性を大切に出来ていないのが現状である。	サービス終了後の関係に関しては関係性を大切に出来ていないのが現状である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活環境については、職員と一緒に生活していく中で想いを感じていかなければならない事と、ご家族も交えながらアセスメントを繰り返している。	ご本人の生活環境については、職員と一緒に生活していく中で想いを感じていかなければならない事と、ご家族も交えながらアセスメントを繰り返している。	介護計画作成時等の機会に、利用者の思いの把握に努めている。言葉をかけても自分の意見や要望はつきり伝えられない利用者に対しては、その時の仕草や言動、性格や表情からその思いをつかみ支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行う際にご家族や関係者に聴き取りを行なっている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。	アセスメントを行う際にご家族や関係者に聴き取りを行なっている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行う際にご家族や関係者に聴き取りを行なっている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。	アセスメントを行う際にご家族や関係者に聴き取りを行なっている。また、今のご本人のアセスメントを重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催し、現状の状態確認、今後の方針を決め介護計画に活かしている。必要時にはカンファレンスも開催して介護計画を作成している。	定期的に担当者会議を開催し、現状の状態確認、今後の方針を決め介護計画に活かしている。必要時にはカンファレンスも開催して介護計画を作成している。	入居時は家族や本人、在宅のケアマネジャーから聞き取りを行い、仮プランを作成する。その後状態観察を行ない、一か月を目途に本プランを作り、半年毎に見直しを行っている。状態変化があった時には、直ちに見直しをして、利用者の現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンスの実施、職員間での気づきは朝礼などで話し合い、連絡ノートに落とし込み情報共有している。これらを含み計画書に反映させている。	毎日のケア記録の作成、ミーティング時のカンファレンスの実施、職員間での気づきは朝礼などで話し合い、連絡ノートに落とし込み情報共有している。これらを含み計画書に反映させている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在のご利用者の状態把握を行なう事で、今必要なニーズで何であるかを確認して対応している。	今現在のご利用者の状態把握を行なう事で、今必要なニーズで何であるかを確認して対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい介護サポーターの活用を行い、多様な活動を提供する事で、日々の生活を楽しんで頂けている。	ふれあい介護サポーターの活用を行い、多様な活動を提供する事で、日々の生活を楽しんで頂けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時にご本人、ご家族の希望を伺ったうえで既存のかかりつけ医を継続するか当事業所と提携している甲州リハビリテーション病院の医師をかかりつけ医とするか判断を委ねている。	ご入居時にご本人、ご家族の希望を伺ったうえで既存のかかりつけ医を継続するか当事業所と提携している甲州リハビリテーション病院の医師をかかりつけ医とするか判断を委ねている。	内科の定期受診は、事業所で提携している医師の往診を受けている。他科受診の場合は、紹介状を持ち家族か職員が付き添っている。受診時は家族に必要な状態を伝え、受診後の様子も伝えてもらう。受診結果はケア記録に記入し、全職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場でのアセスメントを元に介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護師に相談、適切な指示を仰ぐ事で受診や看護を受けられる。	現場でのアセスメントを元に介護職からの情報や気づきで得た内容を訪問看護師に相談、適切な指示を仰ぐ事で受診や看護を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。また、関係医療機関の甲州リハビリ病院で医師がタイムリーに紹介状を提供してくれる事で病院関係者との情報交換も密に出来ている。	入院時には医療関係者とご家族の間に入り詳細な情報を伝えている。また、関係医療機関の甲州リハビリ病院で医師がタイムリーに紹介状を提供してくれる事で病院関係者との情報交換も密に出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針をご家族に説明し、同意を頂けている。また緊急時、看取り時の方向性をご家族にも検討して頂く場を設けて、双方のすり合わせが出来るようにしている。	重度化の指針をご家族に説明し、同意を頂けている。また緊急時、看取り時の方向性をご家族にも検討して頂く場を設けて、双方のすり合わせが出来るようにしている。	重度化した時の看取りマニュアルを作成し、家族には看取り対応も可能であることを伝えている。重度化した時には家族、主治医、訪問看護師と話し合い協力体制が取れている。家族の多くが事業所での看取りを希望しており、現在もその段階の利用者がいる。看取り後は、家族と話し合いの場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル、連絡網などを見えるところに置き、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会を行なうようにしている。	緊急時のマニュアル、連絡網などを見えるところに置き、全スタッフが緊急時の初期対応ができるように定期的に勉強会を行なうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルなどを作成しており、研修も行っている。防災訓練は年2回実施。夜間想定避難訓練も視野に入れ実施している。	地震対応マニュアル、水害対策マニュアルなどを作成しており、研修も行っている。防災訓練は年2回実施。夜間想定避難訓練も視野に入れ実施している。	年に二回、消防署の協力で避難訓練を行っている。第一避難場所は決めてある。地震、火災、水害時の避難訓練マニュアルは作成してある。防空ずきん、ヘルメットの準備もある。また、家族から緊急連絡網作成の要望があり、今後作成の予定である。	日常の散歩時に第一避難場所を確認する、雨が降っている日に大水害を想定して三階に避難するなど、利用者が避難場所が習慣化できるような訓練も期待したい。また家族の協力を得る為に、第一避難場所を家族と確認しておく事も期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初任者研修時にテキストを用意して、倫理マナー研修を実施している。また、全員参加で上長が講師で年に1回倫理・マナー研修開催している。	初任者研修時にテキストを用意して、倫理マナー研修を実施している。また、全員参加で上長が講師で年に1回倫理・マナー研修開催している。	社内で倫理、マナー研修を行い、職員同士が気が付いたことはお互い注意し合っている。個人情報については初任者研修で学び、守秘義務は守っている。利用者の書類の管理も出来ている。入浴は、要望があれば同性介助も可能である。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名 やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができるように指導している。ご利用者の表情や言動などを、常に観察、聴く事で支援できるようにしている。	できるだけ日常生活の中でご本人の思いや希望が表出できる会話ができるように指導している。ご利用者の表情や言動などを、常に観察、聴く事で支援できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを職員も把握しながら、その方の生活のリズムを崩さない支援を行なっている。職員側がゆとりのある支援をする事でその人らしい暮らしを保てるようにしている。	個々のペースを職員も把握しながら、その方の生活のリズムを崩さない支援を行なっている。職員側がゆとりのある支援をする事でその人らしい暮らしを保てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。自分で洗濯できる方は、その方の意思に任せている。	ご本人の生活習慣を知った上でその人らしい身だしなみをして頂いている。自分で洗濯できる方は、その方の意思に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手づくりランチ等の曜日を設定して、ご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作るお手伝いをしてもらっている。共同作業で、興味のある方など全員が何かしらのお手伝いができる工夫をしている。また、片付けなどはお願いして茶碗を拭くなどの作業も行なってもらっている。	手づくりランチ等の曜日を設定して、ご利用者に要望を聞きながら一緒にランチを作るお手伝いをしてもらっている。共同作業で、興味のある方など全員が何かしらのお手伝いができる工夫をしている。また、片付けなどはお願いして茶碗を拭くなどの作業も行なってもらっている。	土曜日の手作りランチ以外は、専門業者から食事が届く。手作りランチのメニューは皆で食べたい物を決めている。最近では中華丼、お好み焼きなどを作って楽しく食べた。誕生日等の行事食や回転寿司、レストラン等の外食の機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時、入居後のご本人の状態をアセスメントして、提供している。水分量の問題のある方には工夫をして水分摂取を促している。水分量のチェックも行い、職員の情報共有もしている。栄養管理士によるバランスのとれた食事も確保できている。	入居時、入居後のご本人の状態をアセスメントして、提供している。水分量の問題のある方には工夫をして水分摂取を促している。水分量のチェックも行い、職員の情報共有もしている。栄養管理士によるバランスのとれた食事も確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアは行なっている。ご利用者に合わせ支援を行えている。週1回訪問歯科も入り、口腔ケアや治療など必要な方には施行してもらっている。	毎食後口腔内のケアは行なっている。ご利用者に合わせ支援を行えている。週1回訪問歯科も入り、口腔ケアや治療など必要な方には施行してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方はおらず、全員がトイレでの排泄ができている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行なっており、また排泄チェック表で排尿、排便の状態を記録し、便秘などの方への対応も医師と相談しながらできている。	オムツの方はおらず、全員がトイレでの排泄ができている。それぞれの能力に応じた排泄支援を行なっており、また排泄チェック表で排尿、排便の状態を記録し、便秘などの方への対応も医師と相談しながらできている。	排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ介助を進めている。一日平均8~10回の介助を行なっている。介護度の高い利用者もいるが、ポータブルトイレを使う利用者もなく全員がトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、排便の有無などを把握できるようにしている。職員も全員が意識できるようになっている。できるだけ水分補給や運動を促している。便秘が長く続くようであれば医療との連携で服薬等を用いる対応をしている。	排便チェック表を作成し、排便の有無などを把握できるようにしている。職員も全員が意識できるようになっている。できるだけ水分補給や運動を促している。便秘が長く続くようであれば医療との連携で服薬等を用いる対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の設定はしているが、ほぼ御利用者のタイミングと状態に合わせて入浴を促している。	曜日の設定はしているが、ほぼ御利用者のタイミングと状態に合わせて入浴を促している。入浴日を増やしたい希望の方もおり、現状ご家族が来られる時にお手伝いを依頼して介助してもらっている方もいる。	毎日入浴は行っているが、基本的には一人週2回の入浴となっている。入浴嫌いの利用者は、親しい利用者に誘ってもらったり、タイミングを見ながら声掛けしている。リフト付きの浴室もあり、パネルヒーターも設置され浴室内は入浴しやすい環境になっている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

やさしい手グループホームこうふ西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1F )	ユニット名( 2F )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息を促している。自分から居室へ行かれる方もいるので見守り等で注意し、季節に合わせた環境や室温などに注意して安眠できるようにしている。	その時の状況に応じて休息を促している。自分から居室へ行かれる方もいるので見守り等で注意し、季節に合わせた環境や室温などに注意して安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方箋のファイルを見られるようにしており、薬に内容について理解できる環境を作っている。服薬内容が変更ある時は、朝礼時や連絡ノートに記録して周知できるようにしている。	職員全員が処方箋のファイルを見られるようにしており、薬に内容について理解できる環境を作っている。服薬内容が変更ある時は、朝礼時や連絡ノートに記録して周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握しつつ、今の状態でできることを拾い上げ、楽しみや張り合いの持てる役割を持つことができる。個々の能力を見出し、負担なく楽しめる事を支援している。	生活歴を把握しつつ、今の状態でできることを拾い上げ、楽しみや張り合いの持てる役割を持つことができる。個々の能力を見出し、負担なく楽しめる事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出できる時には支援している。買い物なども少人数で、またご家族にも声を掛け、一緒に出掛けるなどの協力を得ている。	季節に合わせて外出できる時には支援している。買い物なども少人数で、またご家族にも声を掛け、一緒に出掛けるなどの協力を得ている。	天気を見ながら散歩に出掛けたり、職員とベランダに出て洗濯物を干したり、ゴミを出すなどしている。時には外に椅子を出して外気浴もしている。年間行事は、初詣やぶどう狩り、美術館や四季のお花見などがある。また、回転寿司などの外食にも出掛け、家族も同伴して一緒に楽しむ機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は本人に持ってもらう事は基本はしないようにしている。契約時ご家族と預かり金の契約の取り交わしをしている。必要な時は預かり金でお金を使う支援を行えている。	現金は本人に持ってもらう事は基本はしないようにしている。契約時ご家族と預かり金の契約の取り交わしをしている。必要な時は預かり金でお金を使う支援を行えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話はいつでもかけられるようになっていて。携帯電話を持たれている方もいるので自由に連絡できるようにしている。手紙のやり取りも自由にできている。	ご本人の希望があれば電話はいつでもかけられるようになっていて。携帯電話を持たれている方もいるので自由に連絡できるようにしている。手紙のやり取りも自由にできている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に関しては居心地の良い空間になるように考え、レイアウトなど適宜変更している。ご利用者に季節に合わせた塗り絵などを塗ってもらいそれを壁に飾って季節感を感じてもらっている。居心地の良い空間を作るように努力している。	共有空間に関しては居心地の良い空間になるように考え、レイアウトなど適宜変更している。ご利用者に季節に合わせた塗り絵などを塗ってもらいそれを壁に飾って季節感を感じてもらっている。居心地の良い空間を作るように努力している。	広いリビングは大きいソファやテーブルが配置されている。対面式のキッチンは何人かが入れる広さがあり、職員と共に食事の準備が出来る。床暖房になっていて暖かい。廊下も広く明るい環境であり、清掃専門の職員によって掃除が行き届き清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ定席が決まっており、そこに居られることで穏やかに過ごされていることが多い。気の合った方同士で過される事も多く、笑顔や笑い声が増えてきている。	ほぼ定席が決まっており、そこに居られることで穏やかに過ごされていることが多い。気の合った方同士で過される事も多く、笑顔や笑い声が増えてきている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族に愛着ある物を持参いただくように話しており、それぞれのご家族が工夫しながら居心地良く過ごせる空間を作られています。	入居時に、ご家族に愛着ある物を持参いただくように話しており、それぞれのご家族が工夫しながら居心地良く過ごせる空間を作られています。	事業所ではベット、チェスト、作り付けのクローゼット、加湿器の用意がある。利用者は使い慣れた寝具、机、椅子、仏壇などを自由に持ち込むことができ、壁には家族の写真を貼る等して居心地よく過ごせる工夫をしている。床にカーペットを敷き、布団で休む利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各扉に名前を表示しており、名前を読みながら自分で居室に入られたり、一人ではできないことはできている。自立されている方は安全を考慮しながら自立した生活が送れている。	各扉に名前を表示しており、名前を読みながら自分で居室に入られたり、一人ではできないことはできている。自立されている方は安全を考慮しながら自立した生活が送れている。		